

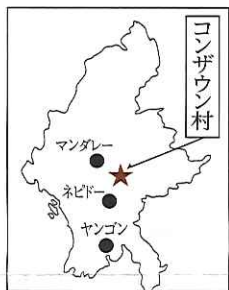


ミンガラバー

認定 NPO法人
日本・ミャンマー
医療人育成支援協会
〒700-0815
岡山市北区野田屋町2-4-18
TEL: 086-224-0102
FAX: 086-221-2554
URL: http://www.mjcp.or.jp



新校舎の前で開校を祝うテープカット=ピンダヤ



ミャンマー・シャン州の山岳地帯にある少数民族の村に初めて小学校ができた。

村に待望の小学校

西山さん 寄付 長距離通学解消

これまで子供たちは片道2、3時間もかけて隣村の小学校に通っていた。それを知った理事の西山央さんが寄付し、10月14日、大勢の村民が祝うなか贈呈式が行われた。

8千以上の仏像がある「ピンダヤ洞窟」で知られるシャ

ン州ピンダヤ。ここには少数民族のダヌウ族が暮らす137の村があるが、そのうち21の村には小学校がない。

コンザウン村もその一つだった。約20人の子が険しい山道を通って隣村の小学校に通学しているが、長時間かかるため入学をあきらめる子も多い。村は無医療といつてよく、初めてここを訪れたピンダヤ地区病院のような実情を聞いた西山

さんは小学校の寄付を思い立った。

贈呈式には村を管轄する地区長官や地区選出の国会議員、それに協会と関わり深いミャンマー国民健康財団のタンセイイン理事長も出席。村民は総出で太鼓をたたいて歓迎、若い女性は民族衣装でバラの花を出席者に手渡した。

「あかね・コンザウン小学校」と名づけられ、先生3人に児童約40人。これまでに隣村の小学校に通って

いた20人に加え、未就学だった20人が新たに入学した。西山さんは「皆さんが喜び、うれしいことは、私にとってもうれしい」と挨拶し、日本から持参した文具やおもちゃをプレゼントした。

来年、公立校に

来年6月には教育省所管の公立学校になるが、それまでの運営費は西山さんが援助する。

ミャンマー保健相 岡山を訪問



歓迎会で、小冊子を手にとる岡山大学の医療支援に感謝するミントウエ保健相。右端は森田潔学長=岡山市中区

12日夜、岡山市中区の岡山プラザホテルで催された岡山主催の歓迎会には、敬裕教授(協会理事)の司

ミャンマーのミントウエ保健・スポーツ相が9月12・13両日、岡山市を訪れた。大臣は協会や岡山大学の医療支援活動のことを詳しく知っており、神戸で開かれたG7(主要7カ国)保健相会合にオブザーバーとして参加した機会に岡山へ足を延ばした。

歓迎会に1000人

大学や協会、経済界などから約1000人が出席。木股

会で始まり、森田潔学長が歓迎の言葉を述べ、岡田茂・協会理事長の発声で乾杯した。

保健相は挨拶の中で、これまでの人材育成や研究の支援に感謝するとともに、今後の協力を要請した。また、岡山大がまとめたミャンマーとの医療交流についての小冊子にふれて「これをアウンサンスーチー国家顧問にもぜひ見てもらおう」と発言。歓迎会に招待されたミャンマーからの留学生16人に対して「素晴らしい岡山大でしっかり勉強し、学んだことを母国に広げてほしい」と励ました。

翌13日は岡山大病院などを大塚愛二医学部長や横野博史病院長らの案内で視察。公衆衛生が専門の医師でもある保健相は最新の医療施設を興味深く見学し、学生の教育システムに関心を寄せていた。



晩餐会で挨拶するアウンサンスーチー氏。右が安倍首相、左手前の横顔が岡田理事長。長=東京・迎賓館デジタル毎日から

理事長2話 スーチー氏と同席 首相主催の晩餐会

ミャンマー新政権を率いてから初めて来日したアウンサンスーチー国家顧問兼外相を迎えての安倍晋三首相主催の晩餐会が11月2日夜、東京の迎賓館であり、協会の岡田茂理事長が招待された。

主要閣僚や経済人、文化人ら日本側招待客約50人中、岡田理事長は安倍首相やスーチー氏らと一緒に正面中央のテーブルに同席。スーチー氏が冒頭の挨拶で、日本は女性の活躍がテーマになっているが、ミャンマーでは女性の活躍が課題と述べたことについて、岡田理事長は歓談でスーチー氏に提案した。

日本には商業、工業、農業などの職業学科を持つ高校があることをあげ、「ミャンマーにはこの種の学校がない。男性が活躍するためには必要と思う」。

これに対してスーチー氏は「その方向で動いていきます」と答えたという。

岡田理事長は10月2日、ミャンマー第2の都市にあるマンダレー医科大学から名誉博士号を贈られた。同医大では、協会の招きによって日本で研修を受けた医師が教授などになって活躍している。この人材育成の功績を称えての授与だ。

当日は、理事長と旧知のキンマウンリン学長は訪日中で不在だったが、代わりにエイエイチ副学長が「これまでの貢献に感謝する」と述べた。式にはミョウキン協会ヤンゴン代表も出席し、昼食をとりながら大学幹部と懇談した。

岡田理事長は2006年にヤンゴン第1医科大学から名誉博士号を贈られている。

寄稿

ナガという少数民族

土橋 泰子

首狩り 族末裔と 思えぬ 温和さ

どぼしやすこ

大阪外国語大学(現大
阪大学)ビルマ語科在学中、
ビルマ政府招聘留学生と
してラングーン大学に留学。
元NHK国際放送ビルマ
向け番組「やさしい日本語」
講師、元東京外国語大学
ビルマ語科講師、拓殖大
学言語文化研究所講師。
著書に「ビルマ万華鏡」、
「ミャンマー こんなと
き何て言う?」、訳書に「ビ
ルマの民衆文化」「ビル
マ商人の日本訪問記」など。

ナガという民族は、ミャン
マーでは北西部ザガイン管区
とインドのアッサム地方との
国境部、パトカイ山系のナガ
丘陵地帯に住んでいる少数民
族です。

ミャンマーは国内に135
もの少数民族が暮らす多民族
国家と言われています。この
数字は政府が1983年に行
なった国勢調査を基にしたも
のです。

ただ、ナガ族はそのリスト
では、チン族グループ53種族
の中の1つとして「ナガ」と
書かれているのです。実はこ
の「ナガ」も単一の民族では
なく、互いに言葉が通じない
50以上の部族に分かれます。
タンクン・ナガとか、マクリ・
ナガとか、ライノー・ナガと



民族衣装を着たナガ族の人たちと一緒に。中央が筆者

か、それぞれ言葉も衣装も異
なった部族たちなのです。
居住地がインド国境なので
インド側にもナガと呼ばれる
人たちが住んでいます。言
語学的にはすべてチベット・
ビルマ語族として、ビルマ族、
カチン族、チン族などと近い
関係にあります。
私が初めてナガの人たちと
出会ったのは、ミャンマー政
府の給費留学生時代の195
7年11月、他の学生寮の寮祭
に招かれた時でした。当時の
政府がナガの優秀な青年をヤ
ンゴンに呼んで高等教育を受
けさせており、その人たちが
伝統の踊りを見せてくれたの
です。ミャンマー奥地に住む
部族間の戦闘では敵の首を獲
ていました。けれども、いわ
ゆる首狩り族末裔とも思えぬ

温和な表情で、しかも日本人
そっくりなのです。首を獲る
のも日本にもあった習慣です。
古い文化が残されているので
す。残念ながらビルマ語は全
く通じず、一緒に写真を撮ら
せてもらっただけでした。ミヤ
ンマーには未だ奥地にこんな
独特の文化を持つ民族がいる
のだと感じ入ったのです。
ところが、外国人にはとて
も行けそうもないと言われて
いたナガ丘陵へ行くことがで
きたのです。2003年1月、
ナガ丘陵ラヘーという部落で
のナガ族新年祭の期間だけ、
外国人も入域できることを知
り、さっそく申し込みました。

国内便空路、船、さらにトラッ
ク荷台に積まれての延々の旅
でした。これはもう興奮この
上なしのお祭りでした。この
時嬉しかったのは大抵の人た
ちがビルマ語を理解し、話せ
ていたことです。
私はその後2度、個人旅行
を申請し、レーシー、ソムラ
などのナガ村落を訪ねました。
その人たちの暮らしがぶり見た
り、民話等を聞いたりしたかつ
たのです。最近では車の通れる
道も延長されたと聞きますが、
その頃(2006年)は殆ど
が徒歩です。その道々にはかつ
てインパール作戦で日本兵が
苦渋の敗退をしたルートです
が、土地の人にも大被害だっ
たわけです。祖父母世代から
聞いた当時の苦勞を語るナガ
の村人も居ました。
行ってみたナガの村々、ラ
ヘーやレーシーなどはナガ丘
陵では最大級の村で、その他
の村々は小学校もない所が多
いのです。ミャンマー本土の
地方より、インフラは勿論、
教育、医療、すべてが遅れて
います。ミャンマー本土、マ
ンダレー辺りへ出ようと思え
ば徒歩で、山越え谷越えてチ
ンドウイン河畔へ出て、さら
に船で飛行場の有る町へ出な
ければなりません。

私が2003年秋にチンドウ
イン河沿いのナガ部落を訪ね
ていた時も、ナガ奥地への道
があるタマンティというチン
ドウイン河畔の町の食堂で、
奥地から病人を連れてきたク
キ・チン族のおじさんと出会
いました。病人はその村の集
会所に寝かせていて、明日こ
こを通る乗り合い船でホマリ
ンまで下るとのことでした。
何日も高熱で苦しんでいると
いうおばさんを運んできた様
子でしたが、果たして無事に
完治されたか、今も気になっ
ています。
そのホマリンにも滞在した
ことがあります。ガージェー
つまでもな物は売られていま
せんでした。薬も偽物が多く、
かえって症状が悪くなるとい
う話も聞きました。

医療と教育環境を

経済発展の名の下に、現在
は道路も建設されているので
しょうが、信頼できる医療機
関、安心して服用できる医薬
品、子供たちもせめて中等教
育までも受けられる、そう
いう環境が早くこの地に来る
ことを願って已まぬ私です。

協会だより

20人研修終える

准看護師2期生

あかね基金

ミャンマーの農村で働く
准助産師(補助助産師)に
なるため、西山央子・協会
理事が設立した奨学金制度
「あかね基金」で半年間の
研修を受けた2期生20人の
修了式が10月17日、ヤンゴ
ンのホテルであった。
仕事の都合で来られなかつ
た4人を除く16人の研修生



正装の民族衣装の研修生たちは踊りを披露しヤンゴン

と先生4人が出席。協会か
らは西山理事ら7人が参加
した。ゾウエイマウン・ヤ
ンゴン地区担当大臣もかけ
つけ、祝辞を述べた。
修了式には、去年研修の
1期生も招かれ、なかには
この1年間に1人で15例の
出産を介助したというひと
もいた。
「あかね基金」は5年間
に毎年20人ずつ計1000人
の育成を目指しており、今
回で40人が准看護師の資格
を得たことになる。
資金援助3回目
西日本高速道路
テナント団体
協会の活動資金に10月、
西日本高速道路エリア・パー
トナーズ倶楽部(片桐悟会
長)から100万円が寄せ
られた。
同倶楽部は西日本高速道
路管内のサービスエリアな
どに出店しているテナント
53社で構成。福祉やスポー
ツ団体などへ支援をしてお
り、協会にはこれで3回目
の資金援助。

編集後記

神戸でのG7
保健相会合に
出席したミヤ
ンマーのミントウエ保健相がその足で
真先に岡山を訪れたこと。来日した
アウンサンスーチー国家顧問を
迎えての安倍首相主催の晩餐会に、
岡田理事長が招待されたこと。
この2つは、協会の活動実績がミヤ
ンマー新政権にも評価され、また日
本政府の関係者にも知られている
証とっていいでしょう▼土橋泰
子さんに寄稿していただいたナガ
族の話。かの国と長く深く関わっ
てきた筆者の、少数民族に注ぐま
なごしの温かさが行間から伝わっ
てきました。(西崎)